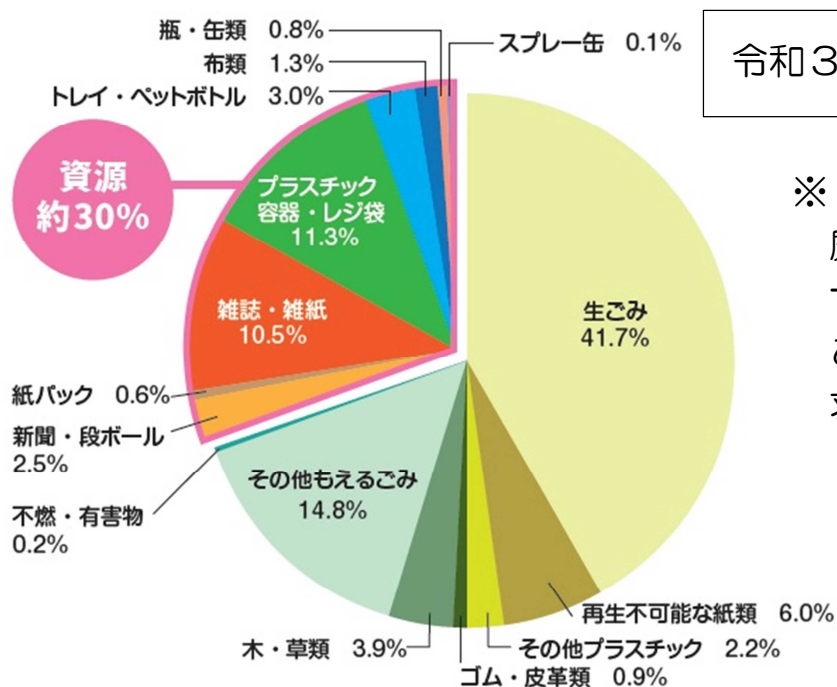


ながくてごみ減量化通信

～第2号～ 令和4年5月 長久手市役所環境課

前号で、本市のごみ収集の現状と課題として、「1人1日あたりのもえるごみの量が増加」しているということをお伝えしました。今回は、もえるごみ袋の中に実際どんなものが入っているのか、またその課題について知っていただきたいと思います。

長久手市のごみ収集の現状と課題その2 資源がもえるごみ袋全体の約30%混入



令和3年度もえるごみ組成調査結果

※ 組成調査とは、みなさんの家庭から出されるもえるごみ袋をサンプルとして回収しまして、ごみの品目ごとに重さの割合を求めたものです。

調査の結果、袋の中の約70%がもえるごみに分類される物でしたが、それらに混じって、プラスチック製容器包装が11.3%、雑誌・雑がみが10.5%も入っており、こういった資源にできるものが袋の中身全体の約30%も混入していました。

重さの比率では上記のとおりですが、プラスチック製容器包装は比較的軽い物質なので、体積にするともえるごみ袋の約3割を占めています。雑誌・雑がみもメモ用紙サイズの小さなものが多数含まれていました。こういったものを分別するだけで今までLサイズを使用していた人はSサイズに、Sサイズの方はSSサイズにサイズダウンできるのではないかと市は考えています。

次回の通信第3号では、課題を解決するための1つの方法として、「プラスチック製容器包装の出し方」についてお知らせする予定です。